

<p style="text-align: center;">特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴</p>		<p style="text-align: center;">NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報 発行人/理事長 馬場 英 男 〒625-0036 舞鶴市浜 247 番地 (3階) TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764 E-mail brick@iris.eonet.ne.jp</p>	
<p style="text-align: center;">会報 97号 平成 28年 8月 1日</p>		<p style="text-align: center;">「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ http://www.redbrick.jp/ フェイスブックページ https://www.facebook.com/赤煉瓦倶楽部舞鶴-1575484726053495/?fref=ts</p>	

目 次

1 平成 28 年度通常総会 事業・会計報告	事務局	4 他のまちづくり団体紹介「まいづる探索隊」	嵯峨根 八郎 さん
2 平成 28 年度事業 見学・視察旅行報告	小野 章 さん	5 トピックス(新発見・奈良少年刑務所保存)	事務局
3 連載『我が国の近代土木遺産 9』	こいけりか さん	6 その他 ・平成 28 年度会費納入について	・編集後記

1. 平成 28 年度通常総会 事業・会計報告 **事務局**

平成 28 年 6 月 12 日、事務局において平成 28 年度 NPO 法人赤煉瓦倶楽部舞鶴の通常総会を開催しました。

以下、4 議案を審議し全員異議なく承認されました。その概要を報告します。

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告 (会報で主な事業は報告済みのため省略します)

第 2 号議案 平成 27 年度決算報告 以下の通りです。

収入の部

科 目	金 額 (円)	備 考
1 会費収入	96,000	個人会員 48 名
2 事業収入	1,058,919	舞鶴大会参加費、市内見学・市外視察会費ほか
3 寄付金等収入	14,000	寄付金
4 雑収入	42,506	受取利息、印刷紙税・印刷費対処返金ほか
当期収入合計 (A)	1,211,425	(内、赤煉瓦保存基金 295)
前期繰越正味財産額	3,199,454	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,209)
収入合計 (B)	4,410,879	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,504)

支出の部

科 目	金 額	備 考
1 事業費	1,477,333	舞鶴大会費用、市内・市外見学会費用、冊子印刷代ほか
2 管理費	1,054,046	旅費交通費、会報費、諸謝金、通信費等 ほか
3 法人税・住民税	0	
—	—	—
当期支出合計 (C)	2,531,379	(内、赤煉瓦保存基金 58)
当期支出差額 (A)	-1,319,954	(内、赤煉瓦保存基金 237)
次期繰越正味財産	1,879,500	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,209)

第 3 号議案 平成 28 年度事業計画

平成 28 年度も引き続き、法人の目的を達成するため、まちづくりの推進を図る事業及び学術、文化、芸術を図る活動を行うこととし、主に以下の事業を実施する事としました。

- ① 市内赤煉瓦建造物の見学会 (行永地区倉梯防空砲台跡・瀬崎地区博奕岬電灯機関跡) 4 月 23 日 (日) 実施済(本号で報告)
- ② 市外の近代化産業遺産視察旅行 (視察先は、大阪市) 7 月 2 日 (木) 実施済(同) ③ 旧丸山小学校保存再生プロジェクト
- ④ 赤煉瓦ネットワーク半田大会 (11 月 5~6 日) 参加 ⑤ その他 廿日の市等イベントに参加し募金・PR 活動実施

第 4 号議案 平成 27 年度事業会計予算

収入の部

科 目	金 額 (円)	備 考
1 会費収入	103,000	入会 3 名、個人会員 50 名
2 事業収入	582,100	市内見学・市外視察会費、廿日の市ほか
3 寄付金等収入	10,000	募金、寄付金
4 雑収入	1,495	受取利息
当期収入合計 (A)	696,595	(内、赤煉瓦保存基金 295)
前期繰越正味財産額	1,879,500	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,446)
収入合計 (B)	2,576,095	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,741)

支出の部

科 目	金 額	備 考
1 事業費	320,170	市内見学、大阪市視察旅行、丸山小再生事業
2 管理費	682,058	旅費交通費、会報費、諸謝金、消耗品費ほか
3 法人税・住民税	0	
—	—	—
当期支出合計 (C)	1,002,228	(内、赤煉瓦保存基金 58)
当期支出差額 (A)	-305,633	(内、赤煉瓦保存基金 237)
次期繰越正味財産	1,573,867	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,683)

◇平成 28 年度法人役員名簿

理 事：石原雅章、馬場英男、梅本徳夫、世良 孝、鷲田龍作、日向 進、吉岡博之、川崎修洋、森真理子、小野 章、隅垣とし子、嵯峨根八郎 [12 名]
 監 事：森口等史、大滝雄介 [2 名] 理 事 長：馬場英男 副理事長：日向 進、梅本徳夫

① 第5回市内赤煉瓦施設見学会を実施

さる4月29日(土)当法人主催で市内倉梯山防空砲台跡と博奕岬電灯機関舎跡を見学しました。参加者26名。

太平洋戦争開戦が迫る中 鎮守府施設を敵機空襲から防衛するため、軍は東山防空指揮所(昭和16年9月完成)を設置、続いて舞鶴湾を囲む倉梯山(標高248m)、愛宕山、空山、博奕岬、中山、槇山、五老岳の計7カ所に防空砲台を建設し、東山の指揮所と専用回線で結んで備えました。7砲台のうち中山砲台は海軍、残りは陸軍(要塞砲兵大隊)が建設したものです。

行永倉梯山防空砲台は、開戦前から建設を始め、終戦時まで逐次工事続行、探照灯、機銃、高角砲などを設置し一時117名の兵員が配置されました。兵舎跡には粗雑なセメント製の煉瓦の壁が残り、当時の物資状況を偲ばせます。

米軍による空襲は、昭和20年7月29日、30日のものが知られています。29日はB29(テニヤンから飛来)による模擬原爆(5トン「パンブキン」)投下で、30日は米軍艦載機群(グラマン社F6Fヘルキャット)による宮津・峰山・伊根まで含む広域のもので、この際各防空砲台からも応射したと想像されますが、敵機への打撃の成果は明確ではありません。但し30日の米軍による詳細な戦果レポートは写真付きで残されています。

瀬崎の博奕岬電灯機関舎跡は、日露戦争開戦に備え博奕岬の標高122m地点に電灯(探照灯)を設置した際、電力を供給する役割を担った施設の跡。電灯から250m離れた標高26m地点にあり、下の海岸から物資を供給しました。赤煉瓦造りで、石炭ボイラー、発電機、石炭庫などが収納されました。明治35年3月竣工。明治40年土砂崩れで被災し、明治42年標高33m地点に新設しました。ロシア軍の襲来がなかったため、これらの施設は活用せずに終わりました。

2カ所の遺跡を視察して、建物の壁は残るものの、梁材、水道管・蛇口・瓦・窓ガラスなどが殆どきれいになくなっていることに気が付きます。戦後の物資不足の時代に再利用するために持ち去られたのでしょうか。そういえば大阪砲兵工廠跡に戦後「アパッチ族」が出没し、金属類を漁ったという話を聞きました。戦時中鍋釜まで供出させられた庶民の巻き返しだったのでしょうか。

(マダニに刺された参加者がいました。悪性ウィルスに感染することもあるので山では十分注意しましょう)



倉梯山防空砲台跡にて記念写真



倉梯山防空砲台跡(セメント煉瓦造)



博奕岬電灯機関舎跡

② 第6回近代化産業遺産視察を実施

さる7月2日(土)赤煉瓦倶楽部舞鶴は標記視察旅行を実施しました。今回は大阪の近代化を支えた建築遺産を見て歩くことにしました。参加者26名。

視察先を訪問順に並べると、紡績で世界的な地位を築いた大阪の紡績業界が建てた綿業会館、幕末から明治にかけて多くの人材を輩出した適塾、大阪の文化発展に貢献し市のシンボルとなっている大阪市中央公会堂、商都大阪の物流・治水に貢献した毛馬第一閘門・洗堰、明治初期に貿易拠点であった川口外国人居留地(川口基督教会)、明治30年頃から工事が開始された大阪築港(住友倉庫跡活用のジーライオン)です。

綿業会館は、昭和6年渡辺節設計で日本綿業倶楽部の建物として竣工、当初は内蔵ダクトからは井戸水の冷風送気が行われました。窓には鋼鉄ワイヤー入り耐火ガラスを使い戦火を免れました。すべての部屋が異なる様式で作られ、資材もイタリア製の各種大理石、清水焼のタイルなどが多用されています。開館早々リットン調査団を受け入れるなど永らく国際的な会合の場として活用されました。品川部長に案内いただきました。頂いたフランス料理はサイコーです。

適塾は、蘭学医・緒方洪庵が1838年船場に開いた私塾で、大村益次郎・福沢諭吉・橋本左内・大島圭介・佐野常民・高松凌雲など錚々たる人材を輩出しました。2階の塾生大部室には、刀傷が残り当時の塾生たちのバンカラぶりを物語っています。隣のズーフ部屋は1冊しかなかった蘭語辞書の貴重さを感じさせます。当時の様子は福沢諭吉の「福翁自伝」に活写されています。丹後田辺藩からは、新宮涼庵など3名が入塾しました。昭和39年国重要文化財指定。

大阪中央公会堂は、株仲間・若本栄之助が私財100万円を寄付し大正7年に竣工したネオルネサンス様式の会堂です。設計コンパで選ばれた岡田信一郎の案に辰野金吾らが手を入れました。軟弱地盤に松杭3935本が打設され、大阪窯業製の煉瓦239万個、化粧煉瓦168万枚、セメント1000トンなどが使用されました。戦火にも耐えた建物は103億円を要した保存再生工事を経て平成14年リニューアルオープンしました。平成14年国重要文化財に指定。

毛馬第一閘門は日淀川と新淀川との水位差(4m)を船が克服する装置、洗堰は日淀川へ流れる水量を調整する装置であり共に明治40年に

完成しています。当時は船舶が重要な運輸手段であり、毛馬閘門が京阪間の物流に貢献したことが分かります。設計者・沖野忠雄の胸像が敷地内にあります。国道交通省淀川資料館の方が解説されました。平成20年重要文化財に指定。

川口基督教会は、米国聖公会宣教師により創始された教会で、現在の建物は英国式ゴシック様式で大正9年築、ウィリアム・ウィルソンの設計です。米国人建築士ウィルソンは大正5年来日、立教大学本館（モリス館）設計に関わり大正7年竣工後に来阪しました。平成7年の阪神淡路大震災で塔が崩壊するなど大きな被害を受けましたが、3年後に復旧しました。教会の煉瓦は大阪窯業製です。岩城牧師に解説いただきました。平成21年大阪市指定有形文化財に指定。

貿易港大阪を支えた築港にある住友倉庫は大正12年に完成、その後地盤沈下などで約2m沈み、コンテナ化の進展もあり平成11年大阪市に移管、一部がジライオンミュージアム（クラシックカーを展示）として活用されています。使用煉瓦は岸和田煉瓦製です。

猛暑の中の視察ではありましたが、参加者の皆様には改めて商都大阪の発展を支えた建築遺産を肌で感じ取っていただけたと存じます。



綿業会館外観(36年)



綿業会館エントランスで記念写真



毛馬第一閘門(M40)



旧住友倉庫(T12)・ジライオンミュージアム

3. 連載「我が国の近代土木遺産9」～ドボクイサン重箱の隅～

こいけりか (特別会員 NO. 87、(株)奄美群島環境文化総合研究所代表取締役)

かつて、西舞鶴に海舞鶴線(舞鶴港線)、東舞鶴に中舞鶴線が敷設されていた舞鶴市。いずれの貨物線も廃線となり、今は遊歩道(自転車歩行者専用道路)として整備されている。遊歩道の路面舗装デザインには、線路の位置が投影され、レールや枕木が撤去されても軌道敷きの記憶は静かに残されている。

前号の「工(こう)の杭」の他に、海舞鶴線跡の遊歩道に残された貨物線当時の痕跡をもう1つご紹介したい。汽車の車輪を模した欄干デザインの海舞鶴橋は小さな橋梁だが、その橋を下部で支えている左右の橋台は煉瓦造だ。橋の手前から覗き込むと、線路が敷設されていたと思しき橋台の上部2か所に御影石が埋め込まれているのが分かる。現役時代、橋台が支えていた線路を通過した機関車や貨車に比べ、今日、橋を渡る歩行者や自転車は随分と軽いのではないだろうか?旧い土木構造物が、のんびりと人や自転車の通行を見守っているようにも思えて少し嬉しくなる。



画像①静渓川に架かる海舞鶴橋



画像②舗装材による線路跡デザイン



画像③御影石が残る煉瓦の橋台

東舞鶴駅から舞鶴赤れんがパーク方面に伸びる中舞鶴線の遊歩道は、中間付近に北吸トンネル(国登録有形文化財)が位置し、往時の姿を残しながら第二の隧道人生を謳歌する姿に安心感を感じる。廃線とはいえ軌道敷跡の行方も気になるが、中舞鶴線の遊歩道を辿って行くと、北吸駅跡の辺りから中舞鶴駅跡までは丹後街道と重なって、線路の痕跡は見えなくなってしまう。

一方、赤れんがパークの敷地内はトロッコ軌道が残され、智恵蔵内のディーゼル車の展示からは、赤煉瓦の建物が倉庫として使われていた頃の姿を思い浮かべることができる。



画像④中舞鶴線の北吸トンネル坑口



画像⑤赤れんがパーク内に残る線路



画像⑥知恵蔵内のディーゼル機関車

中舞鶴線や海舞鶴線に限らず、廃線跡を転用した施設や遊歩道は色々なところで目にするが、街を歩いて、思いも寄らない場所で廃線跡

を見つけた時、人や車のために造られた道路とは異なる現れ方に驚くことがある。廃線跡らしい道を地図で確認すると、在来線とのすり付け部分や曲がり方、伸びていく方向等、軌道敷きだった頃の線形が鮮明に見え、歩きながらでは見えづらかった一般道とは異質な雰囲気。地図平面で際立ってくる。海舞鶴線や中舞鶴線も Google マップをはじめ、地図で見るとその線形が一目瞭然だ。辿った道を後日、地図で再確認しつつ、その土地や地域の成り立ちに、ぼんやりと思いを馳せることは、1粒で2度美味しいまちあるきといえるのではないだろうか？

4. 他のまちづくり団体紹介 「まいづる探索隊の活動」

理事 嵯峨根 八郎 (会員 NO. 138)
まいづる探索隊隊長

当倶楽部主催の研修参加者のウエイトを高めているグループの小生が所属する「まいづる探索隊」についてご紹介いたします。

「まいづる探索隊」は隊員数 100 人の大集団です。平成 12 年にまいづるベイプラザの自主事業として発足、舞鶴市内のウォーキングマップの作成を目的に自然探索を実施し事業終了後は、独立した市民団体となり、「もっともっとふるさと舞鶴を知ろう」という仲間が増え、現在に至っています。またその間、「ふるさと再発見」の活動が「まちづくりデザイン賞」にも選ばれました。

活動は市内外の里山ウォーク、歴史・動植物・寺社・祭り・産業・グルメ・登山など織り混ぜて戸外での健康増進につながる自然探索のほか、定期的な清掃活動やクリーンキャンペーン・男女共同参画事業にも参加しています。

最近では、女性の隊員が多くを占める中、専門的な分野の知識をもつ人も多数あり、知識を共有して視野を広げています。また当倶楽部主催のテクニカルな研修にも毎回多くの方が楽しみにしています。隊員の平均年齢もずいぶん上がってきていますが、体力に自信のある探求心旺盛な人たちがいつまでも楽しんで参加できるようにアイデアを出し続けています。私もメンバーとして、過去 100 回以上の探索を繰り返しましたが、まだまだ知らないところが随分と残されています。

今後も、自他ともに感動的な企画で健康寿命を伸ばすための楽しい活動を続けてまいります。

5. トピックス

事務局

① 神崎煉瓦製造業創設者に新発見！

7月10日、神崎の湊十二社手洗所井戸内面の奉納銘を拓本どりして新発見がありました。当法人が2003年に発行した「神崎煉瓦ホフマン式輪窯」に記載していた内容に間違いがあり、今後訂正する必要となりました。明治30年に神崎煉瓦焼成窯を創設した記念に神社に寄進した手洗所の井戸内面の銘板の拓本どりを当法人の吉岡博之理事が行いました。その結果、創設者は、京都新町五条 竹村藤兵衛 東京田所町 薩摩治兵衛 京都深草 山田宗三郎 の3名と判明しました。これまでの調査では、東京田所町が欠落していましたが、これにより、薩摩氏は近江商人で東京日本橋田所町で「薩摩屋」を構え、平織り綿布の輸入で日本一になった方で、孫はバロン薩摩として有名な薩摩治郎八でした。また、京都新町の竹村藤兵衛も綿布輸入等の綿業で成功し、下京区長を務め、現在の帝人商事(株)の基礎を作りました。

② 「明治の五大監獄」奈良少年刑務所が廃庁され保存活用方針に！

7月16日の朝日新聞デジタル版によりますと、法務省が今年度で奈良少年刑務所の受刑者の収容を停止し、建物は保存方針であるとのこと。閉鎖後は民間の管理者を公募して委託、文化財指定を受け後世に残すことも検討。法務省によりますと「建築から100年以上経過し老朽化が進み改築の必要性を検討したが、建築物の価値が高く、地元自治会や日本建築学会などから建物の保存を求める声上がり、全体を残すことに価値があると考えた」との保存理由です。少しは、赤煉瓦ネットワークが保存運動に貢献できたのではないのでしょうか。

6. その他 平成28年度会員会費納入について ほか

事務局

1 平成28年度会費納入について 同封の郵便振替用紙にて 8月末までに お振込みください。

2 編集後記 奈良少年刑務所の保存決定報道と前後して、今年11月5日・6日に開催予定の赤煉瓦ネットワーク半田大会で、「奈良少年刑務所を宝に思う会」(会長:山下洋輔さん)からの活動報告が決定しました。また奈良では、7月29日を皮切りに「奈良少年刑務所・旧奈良監獄の今後を考えるつどい」が連続開催されるようです。 <https://www.facebook.com/events/1764173827199946/>

折しも、9月19日(月・祝)、舞鶴赤れんがパーク 赤れんが4号棟にて、「山下洋輔スペシャルカルテット」ライブが市主催で開催されます。この企画に当倶楽部も山下さんとの交渉協力をさせていただきました。当日は、赤煉瓦に縁のある山下さんから奈良少年刑務所の事を直接話が聴けるのではと楽しみにしています。

ちなみにチケットは文化会館等で販売されており、全自由席3000円、定員約300人ですのでお求めはお早めに。 (H. B)

会員資格: 会費納入者(特別会員は除く)。入会金1,000円、年会費(個人2,000円、法人10,000円)。

なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付金等 振込先: ゆうちょ銀行 口座番号 (01010-6-21476) 加入者名: 赤煉瓦倶楽部舞鶴